

停電解消後の対応

停電の影響は、牛にストレスを与え、体調不良が懸念されます。
まずは牛の体調を確認し、長時間搾乳ができていない場合は、搾乳を行いましょう。

停電が解消したら…

- ✓ 優先順位に従いブレーカーを戻す。漏電やショートに十分注意する
- ✓ ミルカーとバルククーラーの洗浄、殺菌を行う
- ✓ 搾乳を行う。搾乳の際は、以下のことに留意する

【搾乳開始時の留意点】

- 搾乳をはじめめる前に、治療牛など生乳出荷不可の牛を確認する。
- 前搾りを行い、凝固物（通称ブツ）の確認を行う。
- 乳房炎の場合は、治療を行う。
抗生物質を使用した牛はマーキングを行うなど、抗生物質混入防止対策をとる

- ✓ 生乳の集乳時は、出荷前に細菌数検査を実施する。サンプルはよく攪拌してから採取する。

乳牛の観察

- ✓ 食い込みの減少、発熱、起立不能など、明らかな症状を呈している牛は、治療を行う
- ✓ 乳房炎履歴牛、以前から高体細胞数だった牛、漏乳が多い牛、凝固物（ブツ）がある牛は、特に注意し、経過を観察する
- ✓ 乳房炎の治療は、大腸菌性など緊急性の高い乳房炎を優先して行う。CNSなどは経過観察し、やみくもに治療は行わない
※体細胞数の上昇や乳房炎が急増した場合であっても、数日で落ち着く可能性が高い
- ✓ 停電中の水やエサの給与制限、牛舎環境の悪化による、体調不良（ケトosisなど）や低酸度二等乳の発生が懸念されるので、観察を徹底する

乳牛飼養管理

- ✓ エサの給与制限後の増給は急激に行わず、ゆっくりと元の量に戻す
- ✓ 牛舎の換気や牛床衛生管理など、牛のストレスを軽減する環境を整える

【参考】・前回搾乳から約 16 時間迄の搾乳中止は、乳量や乳質に特に問題は生じない。
・長時間の搾乳中止による影響はあるが、搾乳中止約 48 時間迄は、搾乳再開後の乳量回復が見込まれる。